

介護職員自己評価表

2024年2月26日

事業所名	介護老人福祉施設 うすきの里		正社員	非常勤社員
		介護支援専門員	2人	
		社会福祉士	2人	
		あん摩マッサージ指圧師	1人	
		看護師	5人	1人
		介護福祉士	20人	
		実務者・初任者研修	17人	3人

※複数資格者含む

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	備 考
前回の課題に関する改善	14. 4%	43. 9%	37. 9%	3. 8%	

前回の改善計画	
当施設は2023年10月に開業し、889名の方が内覧に来られた。提供するケアは、①孤独を感じないケア、②生活リズムを踏まえたケア、③心身の健康を目指すケア、④ご家族様が参加できるケア、⑤AI解析を活用した専門的ケアを掲げているが、開設直後より新型コロナの感染者拡大を受けて一部出来ずにいる。ご家族様との「ちょっとした」つながりが大切にされる家族参加型の施設運営を通して、ご入居者のご家族に役割を担ってもらい、暮らしにつながりと関わりがある「前向き」な気持ちに働き掛ける支援を目指している。専門的なケアとして、ミッケルアート回想療法、光を用いる高照度光療法、ブライミング効果を用いる支援、手続き記憶を活かす巧緻作業、回想ライブラリーによる支援、表情解析を活用するSOLO感情セラピーを提供する計画である。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
パブリックスペースは600～800 luxとして覚醒を高め、居室や通路は200 luxに調整してリラックスが得られるようにした。中庭とテレビ、テーブルと天井を同一視野内にして、心理的な安定と自然な刺激がある環境を目指した。幸福度は、覚醒度と快適度が高い「ハッピー」の感情と、快適度は高いものの覚醒度の低い「リラックス」の感情との範囲が理想的と考えられていることから、SOLO感情セラピーを用いて「覚醒」「快適」の感情を測定してQOL向上につなげている。一方、ご入居者が増えるに従って、一部の方にBPSDがみられはじめ、生活リズムの調整が困難になった。そこで、効果が期待される運動療法を提供する計画とした。	

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)		よく できている (60以上)	なんとか できている (50～59)	あまり できていない (40～49)	ほとんど できていない (39以下)	合 計
SECTION 1	対象者の接し方や態度について	5. 6%	58. 3%	36. 1%	0. 0%	100%
SECTION 2	仕事上の態度について	13. 9%	44. 4%	38. 9%	2. 8%	100%
SECTION 3	食事について	16. 7%	38. 9%	41. 7%	2. 8%	100%
SECTION 4	移乗や移動について	13. 9%	44. 4%	38. 9%	2. 8%	100%
SECTION 5	排泄について	16. 7%	44. 4%	36. 1%	2. 8%	100%
SECTION 6	入浴について	8. 3%	44. 4%	44. 4%	2. 8%	100%
SECTION 7	着替えや整容について	16. 7%	44. 4%	36. 1%	2. 8%	100%
SECTION 8	服薬について	16. 7%	41. 7%	36. 1%	5. 6%	100%
SECTION 9	意思疎通について	16. 7%	38. 9%	38. 9%	5. 6%	100%
SECTION 10	行動障害について	19. 4%	38. 9%	36. 1%	5. 6%	100%
SECTION 11	普通の生活やアクティビティについて	13. 9%	44. 4%	33. 3%	8. 3%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	
ご入居者にメリハリのある活動的な暮らしを提供する目的で、運動療法のなかでも認知症予防に効果が期待できる「コグニサイズ」の提供を計画し、コグニサイズ指導者の資格を有する理学療法士と、運動器領域の資格を有する認定理学療法士による「コグニサイズ」を各フロア週一回1時間程度、あわせて4時間提供し、教育を受けたスタッフによる「コグニサイズ」を異なる曜日に同じ頻度と時間で提供している。効果は比較的すぐに現われはじめ、会話をしなかった男性ご利用者が小集団のレクリエーション活動に参加され笑顔をみせられるようになった。複数の心理療法や高照度光治療の効果、心理的な効果と活動性を見据えた照明設備の効果もあわさり、BPSDがみられたご入居者が落ち着かれるなど、大きな効果をもたらしている。毎日小グループでおこなう複数の体操や回想療法にもほとんどのご利用者が積極的に参加されるようになり、メリハリのある生活リズムの整った暮らしにつながりつつある。スタッフのモチベーションは高まり、専門の理学療法士によるOJTによりスキルアップを図りつつある。結果として、夜間に活動されるご利用者は大幅に減少した。	
係長 大坂 高広	

外部評価者	
新型コロナ5類移行に伴い感染対策は緩和されていますが、インフルエンザの流行も相俟って、感染予防の徹底は難しくなっています。一方特別養護老人ホームは、重症化リスクが高い高齢者が多く、施設内での生活を考慮しつつ感染対策を継続することが重要になります。こちらの施設は家族参加型のケアを目指しているだけに、面会制限を余儀なくされるのは残念に思います。家族同意を得ながら適切な面会やケアの模索が問われそうです。嬉しいことに、多くの介護看護職員はモチベーションが高く、QOLを睡眠と表情から推測して適切なケアを検討していました。また、AIを活用した専門機器が複数導入され、睡眠データを活かした適切な入眠時間に誘導していました。午後の活動量を増やし、適切な明るさのもとでレクリエーション活動をおこない中途覚醒を減らしていました。支援に合わせて環境調整を図ることは評価できます。「覚醒」「快適」の感情データに基づきQOL向上を目指す取り組みが確認されました。科学的な介護が求められるだけに、適切な入眠時間や起床時間を検討した、QOL向上を意識したケアは評価できます。スタッフの抱えるストレスは、業務から独立した人事部の個別面談や高頻度のスーパービジョンで寄り添う仕組みになっていました。総合的な評価は、入居者に合わせた個別ケアが提供され、介護職員に対する専門的な教育と研修が行われ、ストレス管理が徹底されていることが推察できました。地域に根ざした事業所として頑張ってください。	
〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目37-1 302 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所 博士(社会福祉学) 岩 崎 房 孝	